

■北海道大が室蘭工業大に快勝。春季オープン戦始まる

2025年シーズンの幕開けを告げる北海道学生アメリカンフットボール連盟主催の春季オープン戦が6月1日、始まった。初日は江別市の札幌学院大グラウンドで北海道大（昨秋の道学生選手権3位）と室蘭工業大（同4位）が対戦。北海道大が攻守に室蘭工業大を圧倒し、50-0で快勝した。春季オープン戦は7月13日まで計7試合を行い、第2日は6月8日午後1時から、帯広畜産大グラウンドで釧路公立大（同2位）と帯広畜産大（同6位）が対戦する。

北海道大―室蘭工業大戦は、北海道大が第1Q8分、K雨宮暖（2年）の25ヤードFGで先制すると、同11分にDE佐々木優（3年）の34ヤードファンブルリターンTDで10-0。第2Q2分にはQB松永潤（2年）からTE伊勢崎仙太郎（2年）への9ヤードパスで17-0とリードを広げた。北海道大は後半も攻撃の手を緩めず、第3Q6分と7分にRB下島圭太郎（3年）の3ヤードと10ヤードの2本のTDラン、同9分にはDE加茂英太郎（2年）のパンツブロックからのリターンTDで加点して38-0。第4Qも、1分に相手パンツミスでセーフティを拾うと、同3分にK雨宮の37ヤードFG、同10分にはエースQB神田智史（4年）からTE伊勢崎への36ヤードTDパスで駄目を押した。



室蘭工業大は主力選手のけがもあり、1年生10人を含む選手23人。主将のRB友田悠斗（4年）のランとQB高尾航平（2年）のパスを軸に臨んだが、QB高尾からWR安澤拓実（1年）とWR本間慧（3年）へのパスで第1ダウンを3度更新するのが精이었다。



北海道大の樋之本彬HCは「QB松永とRB波平碧空（2年）が使えた。守備も、ボールを狙うタックルで2本のTDを奪えた」と収穫を強調。一方で「反則が課題。FGとパスの成功率をもっと上げないと」と、次戦の北海学園大戦（14日）に向けて修正点も挙げた。殊勲のTDを上げたDEコンビは大喜び。佐々木は「ファumbleボールを拾った瞬間、これは行けると思った。1年生の時にTEでTDパスをキャッチしたのも室工大戦だった」と相性の良さもアピールした。加茂は「全力でパンターへ突っ込んだら、蹴ったボールが体に当たった。拾ってから結構走った。TDは初めて」と言葉を弾ませた。QB初先発の松永は「緊張して力んでしまった。いい経験になったので、次は落ち着いてプレーしたい」と決意していた。

室蘭工業大の中島崇雄監督代理は「けがをしない体作りと1年生の育成が課題」と試合を総括し、RB、LB、リターナーでフル出場の友田主将は「ファumbleは自分のミス。もっとチームの精神的支柱にならないと」と巻き返しを誓った。1年生ながら好捕を見せたWR安澤は「新潟南高ではバスケットボール部だったのでキャッチは得意。先輩に褒められてうれしかった」と次戦でも活躍を決意していた。

（学連広報委員 塚田博）